

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **112** 号

令和2年 1・2・3月



●毘沙門天立像 部分（京都 鞍馬寺）

特別展

毘沙門天
—北方鎮護のカミ—
2月4日(火)～3月22日(日)
東・西新館

特別陳列

お水取り
2月4日(火)～3月22日(日)
西新館

特別陳列

おん祭と春日信仰の美術
～1月13日(月・祝) 東新館
重要文化財
法隆寺金堂壁画写真ガラス原板
～1月13日(月・祝) 西新館

特集展示

新たに修理された文化財
～1月13日(月・祝) 西新館

名品展

珠玉の仏教美術
～1月13日(月・祝)
西新館
珠玉の仏たち
通期開催 なら仏像館
中国古代青銅器
通期開催 青銅器館

毘沙門天

― 北方鎮護のカミ ―

2月4日(火)～3月22日(日)



◎ 毘沙門天立像 (岐阜 岩涌山奉賛会)



◎ 毘沙門天立像 (和歌山 道成寺)



◎ 毘沙門天坐像 (京都 清涼寺)



◎ 尼藍婆・毘藍婆坐像 (岩手 三熊野神社毘沙門堂)



四天王は須弥山世界の四方にいて仏教世界を守るカミですが、北方守護の多聞天は「毘沙門天」の名で単独の像として造像、信仰され、四天王のなかでも特別の存在でした。

『法華経』には観音菩薩が衆生を救うために三十三の姿に変化することが説かれています。そのなかには毘沙門天への変化も記されるため、早くから観音信仰と毘沙門天信仰とは密接な関係があり、ともに広まってゆきました。また經典には毘沙門天の子として善膩師童子が説かれ、日本では吉祥天が毘沙門天の妻であると考えられたため、この三尊の組み合わせも見られます。

このほか、中国・唐時代の西域に護国のカミとして出現した伝説をもつ「兜跋」形の毘沙門天像や、二体の像が背中合わせに表される双身毘沙門天像も注目されます。

本展には、日本の毘沙門天像のなかから選りすぐりの優品の出陳がなされました。なかでも半世紀ぶりの展覧会出陳となる国宝・鞍馬寺毘沙門天三尊像や、アメリカから里帰る毘沙門天像など、見逃せない作品ばかりです。皆さまを魅力にあふれた毘沙門天像の世界に誘いたいと思います。

お水取り

2月4日(火)～3月22日(日)

お水取りは東大寺の二月堂^{にがつどう}でおこなわれる法会^{ほうえ}で、正式には修二会^{しゆにえ}といいます。法会の目的は、仏の前で罪過を懺悔^{さんげ}すること（悔過^{けか}）。実忠和尚^{じつちゅう}が天平勝宝四年（七五二）に創始^{じういちめいのかんのんけか}した十一面観音悔過の行法に始まり、それ以来、不退^{ふたい}の行法として千二百六十年以上の間、幾度かの危機を乗り越えながら、長い歴史を刻んできました。現在は三月一日から十四日まで、心身を清めた僧（練行衆^{れんぎょうしゅう}）が十一面観音の前で懺悔し、あわせて天下安穩^{てんかあんのん}などを祈願します。

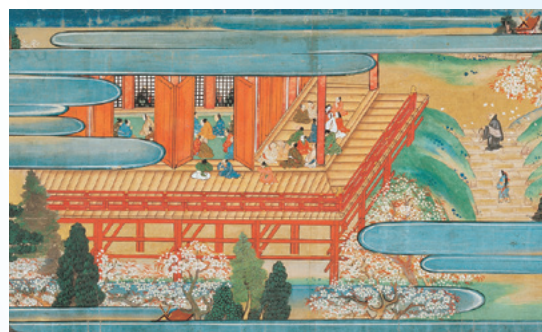
本展は、お水取りの時季にあわせて開催する恒例の企画で、実際に用いられた法具、歴史と伝統を伝える絵画・古文書^{こもんじよ}などがご覧いただけます。



二月堂曼荼羅（奈良 東大寺）



◎香水杓（奈良 東大寺）



二月堂縁起 下巻 部分（奈良 東大寺）

時導師半疊并疊六技施入覺煩法師
當寺造管大施主將軍賴朝右大將
圓慶法師 惠經親講 隆祐親講
明慶大德 奉水精念珠尼法阿弥佛
別當弁曉法師 顯運大法師
勝惠五師 御堂修理司金尊阿弥佛
覺雄大法師 跡榮法師
四職宗沙施入範真法師 惠深五師
内陣臺技施顯依法師 奉宗尼善阿弥佛
御堂修造勸進聖人法阿弥佛
觀音御厨子造聖人法阿弥佛
青衣女人 別當延喜大僧正
造東大寺勸進大和尚位南無阿弥佛
鏡施人身長中子 寛幸親講
定弥五師 蒙家施入法阿弥佛
明範大法師 顯弥大法師 慶運堂司
淨祐大德 章觀法師 延真大法師
覺澄阿闍梨 燈油施入章圓法師
奉鏡大江勢至丸 増覺權少僧都
貞玄權律師 四島施入弁猷法師
定勝法印 實賢法眼 實高戒和上
負采推少僧都 重喜權律師
顯覺大法師 嚴威權寺主 奉鏡律師
顯範親講 延智持經者
疊六技施入善跡大德 大勸進榮西僧正

二月堂修中過去帳（奈良 東大寺）

はじまりは「ご縁」！

当館上席研究員 岩田 茂樹

令和二年二月四日から三月二十二日までの会期で開催する特別展「毘沙門天―北方鎮護のカミ―」。展示作品は三十七件だが、その多くが格別のご配慮を賜り寺社等から拝借する作品であることは、いつもの特別展と同様である。昨年来、ご所蔵者のもとを訪れ、作品のご出陳をお願いして歩いた。その際、展覧会を開催する理由をご説明しなければならぬのは当然だが、だいたい次のようにお話しすることとした。「毘沙門天とのご縁がきっかけです」と。

当館に勤務して二十年余になるが、その間、毘沙門天像の博物館への収蔵に携わる機会を何度か得た。ひとつは、京都府八幡市男山山上に鎮座する石清水八幡宮の多宝塔に安置されていた、鎌倉時代中期の慶派仏師の作と見られる像（図1）を博物館で購入したこと。明治初頭の廃仏棄釈の際に巷間に出たものであった。毘沙門天像の購入は昨年にもあり、もともと奈良に伝来していたと思われる、こちらも鎌倉時代の慶派作品である。

次に、平成二十八年（二〇一六）に最終巻が刊行された『甲賀市史』の執筆委員を仰せつかり、甲賀市内の寺社の蔵する美術作品の調査を行っていたときのこと。滋賀県と三重県の県境に列なる鈴鹿山系西麓の集落で護られてきた、高尾地蔵堂というお堂の毘沙門天像（図2）との出会いがあった。手先などを失い、後世に施された彩色が各所で浮き上がり、剥落が進むばかりか、足もとの邪鬼はばらばらになり、針金で縛ってやつと形を成している体であり、像が自立させない痛ましい状況であった。経緯の詳細は略すが、地元の方々のご理解を得て本像は当館に寄託され、来館の方々のご寄付を資金として保存修理を実施し、往時の見事な姿が甦った。院政期に京都で活動したと見られる仏師の手になる典雅な作品である。

四国は愛媛県の南西部、いわゆる南予地方の仏像調査に従事する機会をこの数年にいただいているが、城下町大洲を領した大洲藩主加藤家の菩提寺であった如法寺において、奈良時代にさかのぼる木心乾漆造の毘沙門天像（図3）に出会った思い出も鮮烈である。別の作品の調査を目的として同寺を訪問した際、住職に促されてご本尊像を拝見するため須弥壇に上ったとき、傍らの小さな厨子の中に何気なく眼をやった途端、動けなくなってしまう。奈良時代の作品を発見する機会などそうそうない。最初は勘違いかとも思ったが、お許しを得て厨子を下ろし、詳細に実見した結果、まちがいないと確信した。こちらもご住職や檀家諸氏のご理解を得て当館にご寄託いただき、光学的手法を用いた綿密な調査を実施して、その成果を学術誌に報告することができた。

まだある。現在、米国はロサンゼルス・カウンティ美術館が保管する毘沙門天像（図4）の調査を、同館の依頼により行った。像本体だけで高さ二メートルを超える大作である。もとは島根県の東南部、奥出雲の山中に存する修験の霊場、岩屋寺に蔵されていた作品である。平安時代後期の作であることは作風から判断できたが、臀部の蓋板が外れることがわかり、そこから赤外線カメラを挿入して撮影したところ、像内内刻部に墨で書かれた文字や絵が浮かび上がった。なかには制作年を示すと思われる「保安五年（一二二四）」の年紀や、八枚の花弁や蓮肉に毘沙門天種子「バイ」を記した八葉蓮華、また詳細は不明ながら真言・陀羅尼の類も見いだされたのである。

本展では、幾多の毘沙門天像のなから、当館への最近の収蔵品や、調査によって新たに見いだされた作品のみならず、日本の彫刻史を代表するような名品の数々の展示が実現する運びとなった。半世紀ぶりの出陳となる平安京鎮護のほとけ、鞍馬寺の三尊像や、鎮護国家のための大寺、九州・太宰府の観世音寺に伝来した雄偉な像、また中国・唐から将来され、平安京の羅城門に安置されたという伝説に彩られる京都・東寺像など、枚挙にいとまがない。ひとりでも多くの方々にご来場いただき、当館、そして筆者同様に、毘沙門天とのご縁を得ていただきたと思うのである。



図1 毘沙門天立像（当館）



図2 毘沙門天立像（滋賀 高尾地蔵堂）



図3 毘沙門天立像（愛媛 如法寺）



図4 毘沙門天立像（個人蔵（米国・ロサンゼルスカウンティ美術館保管））

【表紙解説】

国宝 毘沙門天立像

一軀
像高一七五・七cm
木造 平安時代（十一世紀）
京都・鞍馬寺

京都市街の北郊、幽邃の地に寺地を占める鞍馬寺は、奈良時代の宝亀元年（七七〇）に鑑禎上人によって開かれ、その後延暦十五年（七九六）に藤原氏南家流の藤原伊勢人が伽藍を建立したと伝える。現在、当寺には等身大の毘沙門天像が五軀安置されるが、うち最も古格を伝えるのが本像である。左（向かって右）に妃の吉祥天像、右に子の善膩師童子像を従えて立ち、右手には戟の柄を握り、左手は額にかざす。これは南方に位置する平安京が安穩であるかどうかを見つめるポーズとされ、他に類を見ない特異な像容である。展覧会への出陳は実にほぼ半世紀ぶりとなる。

岩田 茂樹（当館上席研究員）

出陳一覧

名品展

珠玉の仏たち

なら仏像館

令和元年12月24日(火)～

【彫刻】

【第1室】

如来立像

蔵王権現立像

如来立像

地藏菩薩立像

阿弥陀如来立像(裸形)

◎狛犬

【第2室】

行道面 菩薩

行道面 蠅弘

二天王立像

【第3室】

宝冠阿弥陀如来坐像

阿弥陀如来坐像

阿弥陀如来坐像

阿弥陀如来立像

阿弥陀如来立像

阿弥陀如来立像

阿弥陀如来立像

【第4室】

方形独尊坐像埴仏

火頭形三尊埴仏(奈良県橘寺出土)

六角形埴仏(三重県天華寺出土)

塑像断片(迦楼羅頭部ほか)

塑像断片(奈良県川原寺裏山遺跡出土)

明日香村教育委員会

塑像断片(菩薩頭部)

塑像断片(天部・僧形像ほか)

(滋賀県雪野寺出土)

福命寺

正眼寺

個人

誕生釈迦仏立像

誕生釈迦仏立像

誕生釈迦仏立像

誕生釈迦仏立像

如来立像

菩薩立像

菩薩立像

菩薩半跏像

観音菩薩立像

観音菩薩立像

観音菩薩立像

如来坐像

誕生釈迦仏立像

二仏並坐像

菩薩立像

十一面観音菩薩立像

力士立像

如来立像

如来立像

釈迦如来坐像

蔵王権現立像

誕生釈迦仏立像

不動明王立像

勢至菩薩立像

阿弥陀如来立像(裸形)

阿弥陀如来立像

阿弥陀如来立像

阿弥陀如来立像

阿弥陀如来立像

如来三尊像

如来三尊像

如来立像

薬師如来立像

如意輪観音菩薩坐像

吉祥天立像

阿弥陀如来坐像

阿弥陀如来坐像

阿閼如来坐像

阿閼如来坐像

十一面観音菩薩立像

観音菩薩立像

光背(二月堂本尊所用)

十一面観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

観音菩薩立像

観音菩薩立像

法起寺

興福院

神野寺

法隆寺

親心寺

金剛寺

如来坐像

誕生釈迦仏立像

二仏並坐像

菩薩立像

十一面観音菩薩立像

力士立像

如来立像

如来立像

釈迦如来坐像

蔵王権現立像

誕生釈迦仏立像

不動明王立像

勢至菩薩立像

阿弥陀如来立像(裸形)

阿弥陀如来立像

阿弥陀如来立像

阿弥陀如来立像

如来三尊像

如来三尊像

如来立像

薬師如来立像

如意輪観音菩薩坐像

吉祥天立像

阿弥陀如来坐像

阿弥陀如来坐像

阿閼如来坐像

阿閼如来坐像

十一面観音菩薩立像

観音菩薩立像

光背(二月堂本尊所用)

十一面観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

如来倚像(押出仏)

観音菩薩立像(押出仏)

如意輪観音菩薩坐像

天部立像

千体仏菩薩立像

十一面観音菩薩立像

十一面観音菩薩立像

蔵王権現立像(五軀)

破損仏像残欠コレクション

大峯山寺

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

当館

土偶(山形県杉沢遺跡出土)

銅矛(愛媛県四国中央市出土)

勾玉溶范(福岡県弥永原出土)

勾玉砥石(奈良県三輪金屋出土)

ガラス勾玉・金製耳飾ほか

(奈良県星塚古墳出土)

三角縁神獸車馬鏡・斜縁神獸鏡

(奈良県佐味田宝塚古墳出土)

碧玉製合子(富岡鉄斎旧蔵)

劍菱形杏葉

(奈良県珠城山1号墳出土)

忍冬唐草文鏡板

(奈良県珠城山3号墳出土)

銅鏡 瑞花双鳳八稜鏡ほか

(奈良県靈安寺塔跡出土)

元興寺塔跡出土・鎮壇具

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

元興寺

❖ サンデートーク ❖

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

■1月19日(日)「室町時代の“公務員”?

—幕府官僚の実態に迫る—

佐藤 稜介(当館学芸部研究員)

将軍や管領、大名たちが華々しく活躍した室町時代。彼らの活躍も無数の幕府官僚に支えられてのことでした。幕府官僚、とくに奉行衆と呼ばれた文官たちにスポットライトを当て、その実態に迫ります。

■2月16日(日)「鏡を楽しむ」

中川 あや(当館学芸部主任研究員)

博物館・美術館で目にする機会が多い銅鏡ですが、見所や味わい方がよくわからない方は案外多いのではないのでしょうか。今回は古代から近世にかけての銅鏡の楽しみ方、こぼれ話などをお話したいと思います。

■3月15日(日)「旧帝国奈良博物館本館と片山東熊

—日本人建築家と日本近代建築の誕生—

宮崎 幹子(当館学芸部資料室長)

明治28年(1895)に開館した帝国奈良博物館本館(現在のなら仏像館)の建物と設計者片山東熊を中心に、明治時代に誕生した日本人建築家と彼らが目指した近代建築についてお話しします。

■4月19日(日)「描かれた東大寺大仏の姿」

萩谷 みどり(当館学芸部研究員)

たび重なる兵火に遭いながらも復興を遂げ、今日も奈良の地に坐す東大寺の大仏。その姿はさまざまな絵画のなかにも表されてきました。描かれた東大寺大仏の姿から見えてくることについて考えてみたいと思います。

■5月17日(日)「奈良国立博物館所蔵の古写真にみる

奈良公園周辺の景観」

野尻 忠(当館学芸部企画室長)

当館が保管する明治～昭和期の古写真の中には、仏像をはじめとする文化財だけでなく、人物や自然景観を撮影したものもあります。今回は奈良公園とその周辺で撮影された古写真を、現在の景観とともに紹介します。

■6月21日(日)「売立目録と仏像研究」

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

明治時代末から昭和時代にかけて作成された売立目録は、美術作品の伝来や流通を考えるうえで重要です。仏像研究における売立目録の有用性について、近年の調査成果をふまえてお話しします。

【時 間】 各回とも14:00～15:30 (13:30開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 各回194名(先着順)

※聴講無料(聴講には入場整理券が必要です)

※当日12:30から当館講堂前にて、入場整理券(お1人様につき1枚)を配布します。

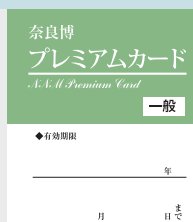
※入場受付はトーク開始後30分で終了いたします。

◆「奈良博プレミアムカード」

「国立博物館メンバーズパス」のご案内

平成29年4月より、当館を今まで以上に楽しみいただける「奈良博プレミアムカード」「国立博物館メンバーズパス」を販売しております。

詳しい情報は、当館ホームページをご覧ください。当館観覧券売場へお問い合わせ



❖ 公開講座 ❖

◆特別陳列

「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板—文化財写真の軌跡—」

1月11日(土)「文化財写真の軌跡—150年のあゆみ—」

宮崎 幹子(当館学芸部資料室長)

◆特別陳列「お水取り」

2月11日(火・祝)「不退の行法、東大寺修二会(お水取り)」

北河原 公敬師(東大寺長老)

◆特別展「毘沙門天—北方鎮護のカミ—」

2月15日(土)「毘沙門天の源流を探る—インドからガンダーラ・西域へ—」

宮治 昭氏(名古屋大学/龍谷大学 名誉教授)

2月29日(土)「唐宋時代の毘沙門天像—王朝の守護神—」

佐藤 有希子氏(奈良女子大学文学部准教授)

3月14日(土)「日本における毘沙門天像の展開」

岩田 茂樹(当館上席研究員)

【時 間】 13:30～15:00(13:00開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 194名(先着順)

※聴講無料(聴講には入場整理券が必要です)

※当日12:00から講堂前にて、入場整理券(お1人様につき1枚)を配布します。

※入場整理券の受取の際には、各展示会の観覧券[半券可。または奈良博プレミアムカード等]をご提示ください。

※入場受付は講座開始後30分で終了いたします。

◆奈良国立博物館賛助会

令和元年12月31日現在、特別支援会員4団体、特別会員4団体、一般会員(団体)17団体、一般会員(個人)76名のご入会をいただいております。

〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社、結の会、(株)葉風泰夢、桃谷樓

〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、(株)ライブアートブックス、(株)ゴードー

〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、(株)伏見工芸、(株)木下家具製作所、(株)天理時報社、(株)きんでん奈良支店、ノブレスグループ、奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、校倉な会、(株)南都銀行、小山(株)、医療法人社団成風会、金剛(株)、(株)グラスパウハーンジャパン、(有)志津香、茶道裏千家淡交会奈良支部

〔個人会員(新規)〕 石崎 栄様 令和元年10月 ご入会
佐藤 順一朗様 令和元年10月 ご入会
清水 康善様 令和元年10月 ご入会

◆キャンパスメンバーズ

令和元年12月31日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、大阪大谷大学、関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部・関西学院千里国際高等部・関西学院大阪インターナショナル、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国語大学・京都外国語短期大学、京都教育大学・京都教育大学附属高等学校、京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部、就実大学人文学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学 (以上、五十音順)

展示品の
みどころ



によらいゆうぞう
如来立像

木造 彩色
像高147.8cm
平安時代(10～11世紀)
当館

近年の購入品である。かなりユニークな作風を示す像で、如来であることはわかるものの、両手先を失うため何という如来なのかはわからない。肉身は漆箔仕上げで金色とし、着衣は赤く彩っている。肘を脇につけた窮屈な姿勢で、同じカーブを描く弧状の衣の襷を並べるところ、あるいは特徴ある耳のかたちや風貌は、東京・深大寺釈迦如来倚像や和歌山・親王院伝阿闍如来立像など、飛鳥時代(白鳳期)の金銅仏を想起させる。

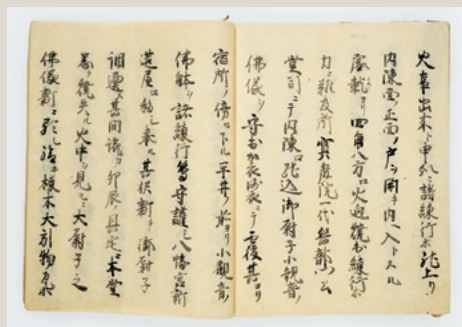
その一方、峰状の鬘と鎬立った鬘とを繰り返す、いわゆる翻波式文を刻むことや、カヤ材を用いた一木彫像で、背面から内刳を施して背板を嵌める構造などは、平安時代前半期の作例に通ずる。ただし体部の奥行きは比較的浅いため、実際の制作期は平安時代中期まで降ると見るべきであろう。

像内には中世の書風を示す「かすが」(春日)の文字が墨書され、いずれかの春日社に関わる作品であったかもしれない。

岩田 茂樹(当館学芸部主任研究員)

◆名品展「珠玉の仏たち」にて展示中

りょうどう き
両堂記
に がつ どう れん ぎょうしゅう にっ き
第六(二月堂練行衆日記)



重要文化財
紙本墨書
縦30.2cm 横24.5cm
江戸時代(17世紀)
奈良 東大寺

東大寺二月堂で毎年行われてきた修二会(お水取り)の記録。修二会を行う僧侶は、練行衆と呼ばれる。かつての練行衆は、教学研究や寺院運営を行う学侶と、両堂(東大寺の法華堂と中門堂)に所属し雑事を行う堂衆から選ばれており、この記録は江戸時代の堂衆方が残した記録である。

学侶方の日記と同様、各年の練行衆の名前、修二会期間中の特記事項について記すが、同じ出来事について異なる視点で述べられている事も多く、興味深い。寛文7年(1669)、修二会期間中に二月堂が焼亡した。学侶方の記録では、激しく燃え上がる堂の様子や、全焼後に悲嘆にくれる人々の姿などが流麗な文章でつづられるが、両堂記では、本尊の一つである小観音を救出の様子、全焼した堂の焼け跡に立つ大観音を簾で覆ったこと、小観音が法華堂に安置されたこと、その後の修二会の継続など、具体的な処置の様子が冷静に記録されている。

斎木 涼子(当館学芸部主任研究員)

◆2月4日～3月22日 特別陳列「お水取り」にて展示

開館日時(1月～3月)

■開館時間／午前9時30分～午後5時

- ・名品展・特別陳列・特集展示は、金・土曜日は午後8時まで。
- ・特別展「毘沙門天」は、金・土曜日は午後7時まで。
- ・特別陳列「お水取り」と名品展は、2月9日～13日(なら琉璃絵期間)は午後8時まで。
- ・特別陳列「お水取り」と名品展は、東大寺二月堂修二会(お水取り)の期間中、3月1日～5日、8日～11日は午後6時まで。
- ・特別陳列「お水取り」と名品展は、3月12日(お水取り籠松明の日)は午後7時まで。
- ※いずれも入館は閉館の30分前まで。

■休館日／毎週月曜日、1月1日

- ・ただし、1月13日、2月10日・24日、3月2日・9日は開館し、1月14日(火)、2月25日(火)は閉館。

※ただし特別展「毘沙門天」のみ、2月10日、3月2日・9日はお休みします。

★無料観覧日(名品展のみ)／2月3日(月)(節分)

■観覧料金 名品展・特別陳列・特集展示

	一 般	大学生	高校生以下
個 人	520円	260円	無 料
団 体	410円	210円	無 料

- ※団体は20名以上です。
- ※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
- ※奈良国立博物館キャンパス(メンバーズ加盟校)の学生及び教職員の方は無料です。
- ※開館延長日の午後5時以降に観覧される方は団体料金を適用します(レイト割引)。
- ※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は、団体料金を適用します(親子割引)。

■観覧料金 特別展「毘沙門天」

	一 般	高校・大学生	小学・中学生
当 日	1,500円	1,000円	500円
団体・前売	1,300円	800円	300円

- ※団体は20名以上です。
- ※前売券の販売は2月3日までです。当館観覧券売場、近鉄主要駅、各旅行会社・プレイガイドコンビニオンラインチケットで販売いたします。
- ※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
- ※この観覧料金で同時開催の特別陳列「お水取り」(同日に限る)および名品展(なら仏像館・青銅器館)もご覧いただけます。
- ※奈良国立博物館キャンパス(メンバーズ加盟校)の学生の方は当日券を400円で、教職員の方は当日券を団体料金でお求め頂けます。



[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。